
機動古戦士コード〇ガンダム

もみもみじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動古戦士コードOガンダム

【Nコード】

N8001Z

【作者名】

もみもみじ

【あらすじ】

戦争は一度終わった。人々は戦争の歴史と差別すべく、新しい歴史を生み出した。

しかし、人々の闘争は終わらない。

いつしか、前の時代の兵器、MSを使うまでに到っていた。

これは、過去最強と言われたコードシリーズの番外機体、Oガンダムを使う少年の物語

第一話 『起動』（前書き）

これは元々、単発小説でした
しかし、ブログの方で書いてほしいと依頼されたので連載となっております。

第一話 『起動』

エンドヒストリー

EH17年。一つの歴史が終わり、二つ目の歴史が開始された。しかし、人は戦争を繰り返していた。戦争により歴史が一つ終わったというのに、愚かな人類は未だに続けていた。

その戦争に使われていたのは、大きな機械であった。人型や獣型をしており、名はMS、MAと呼ばれていた。

コードと言われる特殊なMSがいた。前の歴史によって生み出されたMSで、その力はEH史上最強と言われていた。

コードには二つの単語によって成り立っていた。例えば、量産を重視した機体は、コードNZノーマルザグと言われていた。機体の名前は前の歴史の記録を参考に呼ばれていた。

「こいつは……」

その機体は人型をしていた。目は二つあり、赤い顎みたいな物と、黄色い角が特徴的な顔をしていた。白い肌も特徴と言えた。

「コードOアウト……G……。MSなのに機動しない、ガラクタ……」

このMSは動かなかった。パイロットが座る席もともに機能しない。まさにガラクタである。コードOアウトはそこから名付けられた。

しかし、そのガラクタに乗っている少年は否定した。

「違う……。こいつはコードOアウトなんかじゃない。こいつは……コードOゼロだ」

そして彼は、それに付け加えた。

「G……。じいさんのあの資料が正しいなら……こいつはガンダムのはずだ！」

彼が見た資料の中のガンダムは、学習型コンピュータを持ってお

り、一つ、いや様々な戦争を終結させた機体と書かれていた。

「お前……そいつでやるのか？」

そこに、年老いた一人の研究者がやってきた。その顔には、苦悶の表情を浮かべていた。

「コードA 《アクセルデルタ》じゃもたないんだろ？ ならこいつしかない」

「動かないやつを使うのか？ 意味もないことをするのか？」

「死ぬならやるんだ！ やらないより、やるしかないだろ！」

そう少年は言って、コックピットのハッチを閉じた。少年の周りがモニターに囲まれた。

「コードOアウトいや、コードOゼロ！ 行くぞっ……！」

彼は機動するはずのスイッチを押す。しかし、動かない。

「動け！ 動いてくれ……。ガンダムなんだろ！ 戦争の終結者なんだろ！！ 頼む……動いてくれ……！！」

しかし、動かない。意識がないように動かない。

彼は涙を流しながら叫んだ。

「起きろ！ コードOGゼロガンダム！！」

「ぐう……」

コードA 《アクセルデルタ》のパイロットは苦戦を強いられていた。絶対的な加速力を持っているA 《アクセルデルタ》が、ただ攻撃力が高いしか特徴がない、コードPバードサザーSに圧されていた。

コードA 《アクセルデルタ》にはビームライフルが搭載されていなかった。速さを求めたこの機体に、銃という概念は必要なかった。必要なのは素早く動き、敵が背中を向けた時に一撃で決める、ビームサーベルのみだった。

しかし、敵は翻弄されることなく、例え背中を切り裂こうとして

も、背中に目があるかの如く全て受け止められてしまった。

「畜生……」

彼は気づいていた。純粹にパイロット技術が劣っていると。

「殺ら……れるのか……？」

彼自身、諦めかけていた。パイロットとして、負けを覚悟した。

その時、謎の熱源反応が背後から現れた。

彼はとっさにその熱源反応から後退した。そこをPSに殴られた。
「バードサザビ」

「ぐあああああつ！！??」

彼は意識が薄れていく中、白い機体を目にした。

ゼロガンダム

「コードOG！ アスト・リブ、行きます！！」

少年が乗った機体は、殴られたコードA 《アクセルデルタ》を
避け、敵の目の前に出た。

「あれが……コードPS」
「ビース」

OGは、ビームサーベルを構える。PSもビームサーベルを構える。

「はああああああああつ！！」

OGに乗った少年は、叫びながらビームサーベルで切り掛かる。

しかし、PSはそのビームサーベルを受け止め、OGを殴り掛かる。

「ぐうあああああああ！！??」

何度も。何度も何度も殴られる。

コードOGは頭に付いているバルカンで一度退いた。

「はあ……はあ……」

コードOGにはビームサーベルの他にビームライフルが搭載されている。しかし、ビームライフルにはエネルギーがなく、使用することができなかった。

「手は……ないのか」

彼は思考した。コードOGにも、何か特徴となる力があってもおかしくなかった。

しかし、見つからない。

「どうすれば……」

彼は諦めかけていた。そう思うと同時に、意識が薄れていく。

「コード^{ゼロ}O……」

彼は最後に、そうつぶやき意識を失った。

コードゼロガンダム システムアウト
システムグローウイング カンリヨウ
サイキドウ カイシ

「ま、ただ……」

失うわけにはいかなかった。彼は諦めるわけにはいかなかった。戦争を終わらせる。終わらせないといけなかった。

ふと、彼はモニターに映し出されている字に気づいた。

「これは……」

そこには、 システム エボリューション と書かれていた。

「賭けるしか……ないっ!!」

彼はモニターに映し出されたシステムスイッチを押す。

「うわああああああ!!」

その瞬間、彼の体に電撃が走る。痛々しい。しかし、それを受け入れようとする。

「倒す。あいつを倒す!!」

OGはビームサーベルを構えて、PSに再び挑む。PSは、再びビームサーベルで受け止めた、が。

「うおおおおおおおっ!!」

少年の咆哮と共にビームサーベルの出力が上がった。機体が、ガンダムが彼に呼応するかのように。

「いけえええええええええ!!」

出力が勝ったビームサーベルにただのビームサーベルが勝つわけがなく、そのビームサーベルごとPSを切り裂いた。

そして、空に一つの光が生まれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8001z/>

機動古戦士コードOガンダム

2011年12月25日18時50分発行